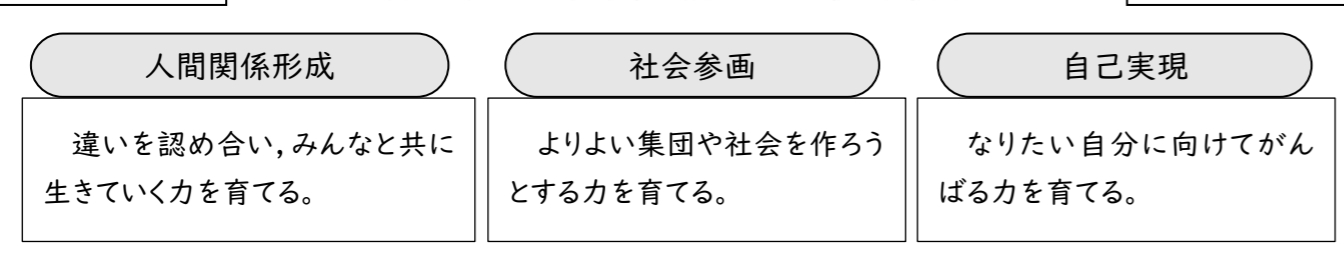


議題 「むかしあそびにきてくれた人を学校にしようたいしよう」 (1) ア 学級や学校における生活上の諸問題の解決

1. 学級活動(1)で育成を目指す資質・能力

- 学級や学校の生活上の諸問題を話し合っ解決することや他者と協働して取り組むことの大切さを理解し、合意形成の手順や活動の方法を身に付けるようにする。
- 学級や学校の生活をよりよくするための課題を見だし、解決するために話し合い、多様な意見を生かして合意形成を図り、協働して実践することができるようにする。
- 生活上の諸問題の解決や、協働し実践する活動を通して身に付けたことを生かし、学級や学校における人間関係をよりよく形成し、他者と協働しながら日常生活の向上を図ろうとする態度を養う。

育成すべき資質・能力の重要な視点



2. 第1学年及び第2学年における評価規準

よりよい生活を築くための知識・技能	集団や社会の形成者としての思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度
みんなで学級生活を楽しくするために他者と協働して取り組むことの意義を理解している。 話し合いの進め方に沿った意見の発表の仕方や他者の意見の聞き方を理解し、活動の方法を身に付けている。	学級生活を楽しくするために、問題を発見し、解決方法について話し合いの進め方に沿って合意形成を図り、仲良く助け合って実践している。	学級生活を楽しくするために、見通しをもったり振り返ったりしながら、自己の考えをもち、役割を意識して集団活動に取り組もうとしている。

3. 議題について

(1) 児童の実態

入学してから10か月が過ぎ、少しずつ学校生活や学級の雰囲気慣れ、児童自身の個性が出始めてきた。自己を主張するようになり、積極的に友達に関わったり遊んだりすることが増えてきたが大きなトラブルはほとんど見られない。授業では進んで発表したり話し合い活動に積極的に取り組んだりすることができる児童が増えてきた一方で、自分の意見に自信が持てず友達と話し合ったり、発表したりすることが苦手な児童もいる。

学級活動については、1・2学期は「みんなでなにかをするのは楽しい」という経験をすることを大切にしながら話し合い活動を行ってきた。「みんなが仲良く、楽しくなるためにやってみたいこと」を出し合い、学級会は話し合って決まったことをみんなでできる時間という経験を積み重ねるために、一時間の中で話し合い、実践、振り返りを繰り返し行った。自分の考えをもつこと、それを発表することなどに抵抗を感じている児童も多かったが、少しずつ「話し合い」の流れを理解し、自分の思いや考えを話す周りのみんなが受け止めてくれることが分かり、ほとんどの児童が話し合いに参加でき始めている。話を聞くことは、会を重ねるごとに少しずつできてきており、国語科の学習で学んだ「はなしかた」「ききかた」を意識して話し合いに参加することができている児童もいる。しかし、友達の意見を聞き、その意見に対して質問したり、不安なことを伝えたりする力はまだ低い。さらに、自分の意見を伝えることに恥ずかしさを感じたり、理由を付けて話すことを難しく感じて言えなかったりする児童もいるという現状がある。以上のように全体での話し合いの際には課題が見られるものの、2学期末の「クリスマス会をしよう」という議題でのグループ活動では児童の成長した姿も見られた。全体の話し合いの中では消極的だった児童がグループでの話し合いの時には積極的に話したり、友達の意見を受け入れ反応したりする姿が見られ頼もしく感じた。グループで話し合い実践することで、児童達は準備をする楽しさや大変さ、みんなのことを考えて工夫した出しものがみんなに受け入れてもらえるという嬉しさを経験し、達成感や充実感を得ているようだった。

(2) 議題選定

本議題は、生活科の「むかしあそび」でお世話になったお家のかたにありがとうの気持ちを伝えたいという児童の思いから選定された。生活科で「むかしあそび」を体験した後の振り返りで「教えてもらったお礼がしたい」という児童が多数いた。クラスの友達以外への相手意識をもつ話し合い活動は未経験であるため、学活ではみんなで話し合っ活動することができるということを伝えると「みんなで何かお礼がしたい」という意見が多く実践することになった。

(3) 提案理由

提案理由としては、「昔遊びを教えてくれて楽しい気持ちになったから、教えに来てくれた人を学校に招待してありがとうの気持ちを伝えたい。」という意見をもとに、柱1では、「どんなことをするか」について話し合う。その際、内容と工夫を具体的に想像できるようにし、感謝の気持ちを伝えるためにできることを意識しながら話し合いを進めていきたい。

